

守りたい！ 未来の地球

自然環境を守る活動に携わる方などへのインタビューを通して、
未来の地球のために、私たちができることを考えます。

詳細 広報課 ☎211-2036



第4回

スポGOMIチーム「ザンギ」
諏訪さん、小砂さん、北川さん

スポGOMIとは

従来のごみ拾いに、スポーツの要素を加えて競技にした、日本発祥のスポーツ。チームで協力して制限時間内にあらかじめ決められた範囲の場所でごみを拾い、量と種類でポイントを競います。

活動を始めたきっかけ

諏訪 兄からスポGOMI甲子園の北海道大会で優勝した話を聞き、私もやってみたい！と思い、二人を誘いました。

小砂 ごみ拾いがスポーツという意外性に魅力を感じ、すぐに参加を決めました。

「高校生ごみ拾い日本一」をかけて戦うスポGOMI甲子園の、昨年9月に行われた北海道大会で優勝し、11月の全国大会に出場したチーム「ザンギ」。札幌日本大学高等学校1年生の3人で結成。ユニークなチーム名は、メンバーの諏訪さんの大好物である「唐揚げ」が由来。
(写真左から諏訪さん、小砂さん、北川さん)

活動を通して感じたこと

小砂 豊平川の河川敷で行われた北海道大会は、諏訪さんのお兄さんから「どんなごみがあるか事前に調べておく」と有利」と聞いていたので、当日は三人で開始前に下見しました。そのおかげで多くのごみを集められ、達成感がありました。
北川 当日は、たばこの吸い殻のほか、雨でぬれて重くなった雑誌なども拾い、「どうしてここにこんなものが捨てられているんだろう」と感じました。

諏訪 参加前は、札幌にはあまりごみが落ちていないと思っていましたが、実際に拾ってみると、私たちだけで1時間で2kg弱もごみが集まりとても驚きました。全国大会では、札幌にはなかった傘のごみなども多く、参加した全42チームで合計348kgものごみが集まりました。大会を通してポイ捨ての多さを実感し、街でごみを見つけたら「拾おう」と思うようになりました。



全国大会の様子。花壇にも多くのごみがありました

私たちにできること

北川 自分はポイ捨てをしていないと思っても、無意識にごみを落としていることもあると思います。まずは自分のごみをしっかりと管理することが、街をきれいにするにつながると思います。
小砂 私は犬の散歩の時に袋を持ち歩き、落ちているごみを拾うようにしています。特に持ち帰りができる飲食店の近くでポイ捨てされたごみをよく見かけます。普段の生活の中で、周りにごみが落ちていないかと意識を向けることが、環境を大切にするための第一歩になると思います。

市民の皆さんへのメッセージ

諏訪 ごみ拾いは面倒と思いますが、みんなで意識して拾うと街はきれいになります。一見、海とは無関係に見える街のごみも、実は川を通じて海洋ごみの原因になり、生き物や環境に悪影響を与えています。この活動が、ルールに従ってごみを捨てることの必要性を改めて考えるきっかけになり、自然環境を守る大切さに気付いてもらえたらうれしいです。
北川 私たちの活動を知って、少しでも「ポイ捨てをやめよう」と思ってくれる人が増えることを願っています。